

自己評価報告書

平成23年 3月31日現在

機関番号：84604

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20520671

研究課題名（和文）青銅製祭器の生産と流通からみた弥生時代の社会変化の研究

研究課題名（英文）Production and Distribution of Bronze Ritual Wares and Its Implication for Understanding Social Change in the Yayoi Period

研究代表者

難波 洋三（NANBA YOZO）

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所・企画調整部・部長

研究者番号：70189223

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：弥生時代・銅鐸・銅戈・青銅器流通・柳沢遺跡

1. 研究計画の概要

銅鐸を中心とする弥生時代の青銅製祭器の生産と流通を分析し、弥生時代の社会変化を解明することを目的とし、以下の計画に基づいて研究を実施する。

（1）銅鐸を詳細に観察し、銅鐸群の抽出とその相互関係の研究を深化させる。特に、近畿式・三遠式の成立過程とその成立の意義の解明につとめ、倭王権成立前夜である弥生後期の銅鐸分布圏内の地域勢力の相互関係と、その発展段階についての研究を進める。

（2）扁平鈕式新段階における流水文銅鐸の系列の衰退と六区袈裟禪文銅鐸正統派の盛行が示す、銅鐸祭祀の展開を主導する集団の交代が、どのような社会変化に対応しているのかについて、考察する。

（3）菱環鈕式から扁平鈕式古段階における銅鐸の広域流通と土器や石器の広域流通の関係を検討する。

（4）弥生時代の青銅器の金属原料の産地の変化と、青銅器の型式や製作地の変化の関係を検討する。

2. 研究の進捗状況

（1）当研究の前半期は、近年出土した長野県柳沢遺跡出土の銅鐸・銅戈の調査とその位置づけの検討が大きな課題であったが、出土した5個の銅鐸は、2個が外縁付鈕1式、2個が外縁付鈕2式、1個が外縁付鈕2式か扁平鈕式古段階であることが判明し、特に新しい3個については摂津系の銅鐸の可能性が高いことも判明し、これらの青銅器の入手先に関し重要な知見を得ることができた。また、

柳沢遺跡出土の8本の銅戈を検討し、製作時期や製作地について議論のあった大阪湾型銅戈a類が、畿内で菱環鈕式銅鐸あるいは外縁付鈕1式銅鐸と同じ頃に作られたことを明らかにした。これは、議論の多い銅鐸の製作時期を検討する上でも重要な成果である。

（2）銅鐸や青銅製武器形祭器の成分分析例や鉛同位体比測定例を検討し、その金属原料の原産地について検討した。成分分析については、外縁付鈕1式末に鉛が朝鮮系から中国系に変化するのに伴い、銅・錫・鉛の比率が大きく変化するだけでなく、ヒ素・アンチモンなどの微量元素の含有率やヒ素とアンチモンの比率も大きく変化することが判明し、鉛のみならず銅の原産地も変化したことがわかった。

（3）近年、島根県の荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡、長野県の柳沢遺跡といった青銅製祭器の一括多数出土例について、精度の高い成分分析がなされている。しかし、一方で、中国製の青銅器に関しては良好な成分分析例がほとんどない。これが弥生時代の青銅器の原料産地を検討する上で障害となっている。そこで、三面の漢鏡の成分分析を実施し、基礎データの充実に計った。

（4）今年の春と夏には、滋賀県立安土城考古博物館と大阪府立弥生文化博物館で銅鐸に関する特別展がそれぞれ開催されるが、その展示は前回の科学研究費助成金の成果および当研究の成果に基づいて構成されるものである。また、研究代表者の難波は、二つの特別展の図録に長文の論考を発表しており、当研究の成果の社会への還元を、充分果たしている。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

学会のみならず社会的注目度の高い長野県柳沢遺跡出土青銅器の位置づけを解明したこと、四本の論文で研究成果を発表し高い評価を受けていること、および、二つの特別展で研究成果の社会的還元も果たせたことから、当初の計画以上に進展している、と自己評価する。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は柳沢遺跡の報告書の刊行が予定されている。研究代表者の難波はこの報告書に当研究の成果を踏まえた銅鐸についての論考を掲載する予定であり、その執筆のため、柳沢遺跡出土青銅器や関係資料の調査・分析を進める計画である。また、前述の特別展は多数の銅鐸を調査できる好機であり、閉館日などに実見調査をして銅鐸に関する知見を深める予定である。さらに、漢鏡の成分分析例を増やし、金属原料の流通についての検討をするための基礎データの充実を図る。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔図書〕(計4件)

難波洋三 2011「扁平鈕式以後の銅鐸」『大岩山銅鐸から見えてくるもの』滋賀県立安土城考古博物館 pp71 89

難波洋三 2011「弥生の祭器 銅鐸の謎にせまる」『平出博物館紀要』第28集 塩尻市立平出博物館 pp1 21

難波洋三 2009「銅鐸の鑄造」『銅鐸 弥生時代の青銅器生産』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館特別展図録第72冊 奈良県立橿原考古学研究所 pp80 87

難波洋三 2009「柳沢遺跡出土の銅鐸と銅戈」『山を越え海に沿う 信州弥生文化の確立』長野県立歴史館 pp66 79